

移動図書館について

佐藤 勉

1. はじめに

移動図書館（ブック・モービル、BM）は公共図書館における図書館活動の一つではあるが、ある意味では住民サービスの最前線といえるのではないだろうか。これは実際に移動図書館に4年間乗務してみて感じたことである。

図書館本館では利用者増加のために色々と活動を行っているが、本質的には利用者の来館を期待するいわゆる「受け身型」であり、イメージ的には図書館や本に興味のある人、何か調べたいことがある人、学生、暇のある人が来る所であり、住民の日常生活に直接関係の深い施設ではないと考える人が圧倒的である。

それに対して住民の家の側まで出かけて行き、だれでも簡単な手続きで無料で本が借りられるという移動図書館こそ、公共図書館の大きな本質である「住民サービス」に一番近く、住民が図書館に抱いている「日常生活に直接関係の深い施設ではない」というイメージを大きく変えるという点で大きな意義がある。また、「生涯学習教育」という点から見ても有効なのではないだろうか。

2. 別府市立図書館での移動図書館設置の動機と沿革

大正11年に蔵書数約1,000冊、係員1名で旧別府市北尋常小学校に開館した別府市立図書館ではあったが、その規模の貧しさゆえ、昭和8年4月に別府市公会堂（現、別府市中央公民館）に移転され、業務の拡大・飛躍が期待されたが、戦争の影響でその運営は思うようにならず低迷を続ける日々であった。

しかし、終戦を迎え、図書館に対する市民意識の向上や、行政当局の文化に対する意識の変革から、昭和36年に別府市中央公民館隣に新図書館が新築・開館されることとなった。

この頃から、図書の貸し出しに対する市民の要望も一層強くなり、図書館としても

「これからは、積極的に市民の中に入って、図書館活動を進めたい。その手初めとして市内の各町内婦人会・青年団・職場の読書グループなど、15～6の団体・グループに10冊程度貸し出そう。」

ということになり、実施してみたところ非常に好評だったので、図書館としても

「図書館は、単に市民が来館して読書をする場所というだけでなく、読みに来ない人や、来たくても来られない人にもサービスをするべきだ。」

とする立場から、移動図書館設置の方向へ動きだし、当初は15冊程度を箱に詰め、小型の車で毎月定期的に市内5～6ヶ所で貸し出しを始めた。

昭和40年代始め頃には、古い小型バスの座席に本の入った箱を積み、職員が交替で運転し移動図書館を実施する方法がとられたが、移動図書館の来訪を希望する地域が多くなり、この方法では行き詰まっていた。

昭和47年、別府国際ロータリークラブより、市民のためにと移動図書館車の寄贈をうけ、ようやく本格的な移動図書館活動が始まったのである。

※ニッサン プリンスホーマー改造 積載冊数約 800冊

この移動図書館は当初は9ヶ所のステーションで活動を開始し、その後もステーション数・利用者とも順調に伸び続け、昭和53年度には20ヶ所、昭和54年度では37ヶ所、昭和56年度には最多の43ヶ所になっていったが、図書の重みと、ハードな運行によって図書館車は急速に老朽化していった。

そして、昭和56年、再び別府国際ロータリークラブより大型移動図書館車の寄贈を受けた。

※ニッサン シビリアン (29人乗) 改造 積載冊数約 1,600冊

この大型図書館車では、積載冊数も倍に増え、活動が益々盛んになることが期待できたが、車のサイズが大きくなったことにより、場所によっては車が入らないステーションも出てきたため、全面的に見直し、28～30ヶ所となり現在に至っている。

この大型図書館車も配備から16年が経過し老朽化が激しくなったため、平成8年、市費にて新規移動図書館車を導入した。

※三菱 ローザ (26人乗) 改造 積載冊数約 2,000冊

この車輛は前車輛より一回りコンパクトではあるが、積載冊数がより多くなり、より多くのサービスが提供できることが期待され、またより狭い地区への巡回が可能となったため新しいステーション設置を検討できるようになった。今後、市民からの要望に添える計画・運営をして行かなければならない。

3. 平成9年度の活動状況

平成9年度は市内11コース29ステーションで運行を行った。

団地	10ステーション
遠隔地 (山間部等)	2ステーション
市公共施設	2ステーション
自治会公民館等	5ステーション
グループ主催	3ステーション
その他	7ステーション

巡回間隔は月1回、貸し出しは一人3冊まで、登録は小学生以上で市内居住者または市内へ通勤・通学している物、ただし本館登録者は登録できない。

登録者数は861人(8年度753人)で全体の約17.6%、貸出者数は6,385人(8年度4,538人)で全体の約18.6%、貸出冊数は18,859冊(8年度13,398冊)で全体の約21.2%である。

ここ10年間の推移を見ると、年々減少してきたのが平成8年度の新規車輛導入により、よりきめ細かなサービスを提供できるようになったため、利用の増加が顕著にあらわれている。

	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度
登録人数	743	714	661	698	707
貸出者数	4,098	3,996	4,419	4,396	4,589
貸出冊数	11,625	11,280	12,694	12,563	13,220
	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
登録人数	700	656	666	753	861
貸出者数	4,767	4,136	3,960	4,583	6,385
貸出冊数	13,443	11,755	11,412	13,398	18,859

4. コース・ステーションの設置

コース・ステーションは次の基準をもとに設置されている。

- ① 1コースは3ステーション以内とし、1コースの各ステーション間隔は5km以内を基準とする。ただし山間部（遠隔地）は除く。
- ② 自治会より要請のあった所。また、地域住民より要請があり自治会の了承が得られた所。ただし10世帯以上の利用希望があり代表者・責任者がはっきりしている所。
- ③ 団体より要請のあった所。ただし15人以上の利用希望者があり代表者・責任者がはっきりしている所。
- ④ 図書館車を十分に駐車・開館運営ができる場所があり、巡回時に必ず確保ができ、なおかつその場所への図書館車の出入りが容易な所。
- ⑤ 市の公共施設（公民館、出張所等）で施設長の了承が得られた場所。
- ⑥ 山間部（遠隔地）の小学校等。
- ⑦ その他、館長・担当者が必要と認めた場所。
- ⑧ ステーションの廃止・休止等は、利用者が5人未満など極端に少なくなった時、巡回場所が工事等で図書館車が駐車できなくなった時、山間部（遠隔地）等の小学校等が廃校・休校した時など、図書館車の運営に支障をきたすようになった時。
- ⑨ コース・ステーションは毎年度ごとに検討・設定・更新する。

以前は、老人ホーム等も巡回していたが、現在では巡回を行っていない。今後の検討課題とすべきである。

5. 住民に対しての周知

ステーションを設置した時の利用希望者以外の対象地域住民に対して移動図書館の周知と利用の呼びかけを積極的に行われなければならない。

現在、次の方法を行っているがまだまだ不十分であり、今後もっと努力と工夫をしなければならない。

- ① 毎月の市報に巡回日程を掲載し、全市民に知らせる。

②新年度には利用者へ1年間の巡回日程表を配布する。また、新規登録者には登録時に1年間の巡回日程表を配布する。

③図書館車に利用案内と巡回日程表を載せておき、見学者等に配布する。

④関係各施設（市公民館、出張所等）に、利用案内と巡回日程表を置いてもらい、施設利用者に周知をしてもらう。

⑤図書館本館にも利用案内と巡回日程表を置き来館者に周知する。

⑥巡回地域の自治会や自治会公民館等に協力を求め、利用案内と巡回日程表を配布し地域住民への周知を計る。また、利用者にも協力を求める。

⑦報道機関へ周知する。

⑧巡回時に移動図書館車が来たことをスピーカー等で呼びかける。

特に、①・④・⑥・⑦・⑧は効果が大きく、新規登録者はほとんどがこの周知方法で移動図書館の存在を知ったことになる。

6. 移動図書館活動についての一考

『図書館ハンドブック』では、

①人口密度が低く、分館を設置することが出来ない地域や、分館から遠隔の地に居住する人々に対して、図書館サービスを行きわたらせること。

②市街地において、分館からの直線距離はそう遠くないが、鉄道・河川・幹線道路その他の障害物等によって、時間的あるいは心理的な距離が隔っている地域の住民に図書館サービスを保障すること。

③身体の障害、高齢その他の事情により、本館・分館を訪れることのできない人々に図書館サービスを保障すること。

④図書館網完成前に、できるだけ図書館サービスを提供するため、分館の暫定的代替としての役割を果たすこと。

と移動図書館の活動目的を説明している。

私は平成元年度から平成4年度の4年間移動図書館業務に直接携わっていた。そこでは利用者と職員とのコミュニケーション・信頼がもっとも重要であり、公共図書館における住民サービスならびに公務員の職務の原点・本質を教えられた。

極寒・極暑や雨の中、利用者から「ありがとうございました」「ごくろうさま」と声をかけられ、寒さ暑さの辛さを忘れることができたのを覚えている。また極寒・極暑や雨の中でもずっと移動図書館車が来るのを待っている利用者に感謝の念を抱かずにはいられなかった。

このことは、図書館本館のカウンター業務（館内奉仕）だけでは習得できなかったのではないかと、移動図書館業務（館外奉仕）から離れた現在は強く感じている。同じように分館を設置して図書館網を整備しても、結局カウンター業務（館内奉仕）になるので、移動図書館は『図書館ハンドブック』で言うような「分館の暫定的代替」では決してないと思う。

移動図書館は実際にその業務を体験してみなければ、その楽しさと奥の深さを理解できないものである。そのために図書館実習生の実習項目に必ず組み込み体験させている。

公共図書館の活動として移動図書館活動（館外奉仕活動）は存在しているが、決して活動の一部として考えるのではなく、ある意味では最も重要なまたは中心的な活動として考えなくてはならない。公共図書館は前にも述べたように、利用者の来館を期待するある意味では殻にとじこもった「受け身型」であってはならない。もっと住民の中に殻を破って進んで飛び込んで行く図書館でなければならない。それが生涯学習の最前線としての公共図書館の役割であり、社会教育・生涯学習に携わる者として理解し実践すべきことである。

7. おわりに

移動図書館は何も公共図書館だけの活動ではなく、公民館等の他の社会教育・生涯学習施設と連携・協力することにより公民館活動、ひいては社会教育・生涯学習活動として、それぞれの活動をより活発にすることができる。

また、図書館がなくても、公民館や教育委員会が移動図書館活動を実践すべきであり、是非とも実施して欲しいと思う。専用に改造した移動図書館車がなくても、ワゴン車等に本を積んで巡回したり、地域文庫等を設置して定期的に巡回・配本したりしてその活動を実践すべきである。

「理論より実践」「感謝と信頼」「住民サービスの原点・本質とは」「受け身ではなく、進んで住民生活の場に飛び込んで行く社会教育・生涯学習の実践と重要性」、移動図書館より教えられたこの事を今も大切にしながら仕事に追われる毎日である。

（さとう つとむ 別府市立図書館）

参考文献

『図書館ハンドブック』第4版 日本図書館協会 1977

『図書館雑誌』第92巻第4号（1998年4月号） 日本図書館協会 1998

※参考資料 移動図書館車製作仕様書及び設計図面

移動図書館車製作仕様書

1. 改造趣旨

- (1)内外架式図書館車とする。
- (2)搭載冊数は約 2,000～2,500冊程度。
- (3)書架はスチール製、用具庫・収納庫・机は木製とする。
- (4)搭乗定員は3名とする。

2. 車両

- (1)26人乗りマイクロバス、ハイルーフ車（全高 2,715mm以下、車内高 1,800mm以上）
- (2)ディーゼルエンジン、3,500cc以上。

- (3)パワーステアリング、排気ブレーキ装着車。
- (4)後輪ダブルタイヤ。
- (5)後部リーフスプリングを強化する。

3. 車 体

① (屋根・天井)

- (1)屋根と天井内張りとの間に良質の断熱材を施す。
- (2)天井に採光窓を3ヶ所設け、カーテン付きとする。
- (3)室内灯を3ヶ所設ける。それぞれ10W。カバーは乳白色。
- (4)全天候型ベンチレーターを2ヶ所設ける。
- (5)フロントウィンドー上部及び車体後部にスピーカーを設ける。全高は2,715mmを越えない事とし、スピーカーに雨水が侵入しないように、腐食防止には格段の配慮をする。

② (側面出入口及び扉)

- (1)左側前輪後部に逆開きの折扉を設ける。扉の硝子窓は広くとり採光を確保する。
- (2)ステップは極力低くし中間ステップを設ける、又段鼻にはスリップ止めを施す。
- (3)ステップの右手に手摺りパイプを設け、金属部の露出は極力少なくし汚れにくいゴム等で被覆する、その他の手摺りパイプにも同様の処置を施す。
- (4)扉には鍵を付け手摺りパイプを付設し、開放時には固定するためのストッパーを下部に設ける。
- (5)扉内部上側プロテクターを取りつける。

③ (後部出入口及び扉)

- (1)後部中央に観音扉を設ける、開口時の有効高さ1,600mm以上有効幅1,150mm以上。
- (2)観音扉の開放時は、90度及び全開時に固定するためのストッパーを装備する。
- (3)ステップは引出し式としスリップ止めを施す、ストッパーはワンタッチ式とする。
- (4)扉内面の左右に、手摺パイプを取りつける。
- (5)扉両面の上部は固定窓付きとし、可能な限り広い硝子面積とする。
- (6)内側上部にプロテクターを設ける。

④ (運転席扉、他)

- (1)運転席扉は標準車通りとする。
- (2)車両左下部の視界を確保するため、Side-LowWindow.を設ける。

⑤ (書架扉)

* 左右に上下開放扉各2式ずつ設置。

- (1)左右両側面は、上・下おおむね「上6」「下1」の割合で開放できるようにする。

- (2)上開き扉はガス圧ダンパーの支柱により開閉し、支柱には補助アームを取り付ける。
- (3)下開き扉は、カウンターとしてリンク式アームで固定し、堅牢・強靱な加工を施す。尚下開き扉は、水平・全開の可能な物とし、角部にはゴムコーナープロクターを施す。
- (4)扉はパイプロック式ハンドルを用いて開閉できるようにする。シリンダーキーは同番号とする。
- (5)下開き扉の内側は、ステンレス張りとする。
- (6)車体と扉の合わせ目は、雨水・ほこり等の侵入を防ぐよう入念な配慮をする。

⑥ (受付扉)

*左右に上下開放扉各1式ずつ設置。

- (1)左右受付席の横に上下開放扉を設ける。開放部分は書架扉上開きと同じ高さとし、上・下「上5」「下1」の割合で開放でき、上開き扉は固定硝子入りとしレースカーテンを付設する。
- (2)上開き扉はガス圧ダンパーの支柱により開閉し、支柱には補助アームを取り付ける。
- (3)下開き扉は、カウンターとしてリンク式アームで固定し、堅牢・強靱な加工を施す。尚下開き扉は、水平・全開の可能な物とし、角部にはゴムコーナープロクターを施す。
- (4)扉はパイプロック式ハンドルを用いて開閉できるようにする。シリンダーキーは同番号とする。
- (5)下開き扉の内側は、ステンレス張りとする。
- (6)車体と扉の合わせ目は、雨水・ほこり等の侵入を防ぐよう入念な配慮をする。

⑦ (床)

- (1)ロンリューム張り、標準車通りとする。
- (2)入口駆け上がり部はアルミ編板張りにする。

⑧ (雨よけテント)

- (1)書架扉・受付扉・側面折扉・後部観音扉の、上部に設置。
- (2)24V電動式で、幅は2mとする。

⑨ (リーフスプリング補強)

- (1)後輪左右を補強、但し陸運事務所の認可の上とする。

⑩ (スペアタイヤの収納)

- (1)シャーシ後部に引出し式ステップを取りつけるため、スペアタイヤの収納場所をシャーシ下部に別途に確保する。

4. 室内取付品

① (書架)

- (1)金属製でスチールラッカー仕上げをする。
- (2)内架棚・外架棚共に3段ないし4段式とする、内架棚は10度の傾斜棚とし、外架棚は水平棚とする。
- (3)書架の取り付けには充分注意し、長期使用に耐えるようボディーアングルに固定する。
- (4)書架背板は隙間を塞ぐ。
- (5)書架の角部は可能な限り丸みを帯びるようにし安全には極力留意する。

② (座 席)

- (1)座席は、運転席・助手席兼左側受付席・右側受付席の3席とする。
- (2)クッションを良くし、レザー張りにする。
- (3)運転席は標準3点式シートベルトを設置しリクライニングシートとする。(標準仕様)
- (4)助手席兼左側受付席は背もたれ前後反転式とし2点式シートベルトを設置する。
- (5)右側受付席は1人掛け後ろ向き席とし2点式シートベルトを設置する。

③ (受 付)

- (1)受付机は後ろ向きに左右2ヶ所設置する。
- (2)受付机は、合板ベニヤ製、机上面はデコラ張りとする。
- (3)左右とも引出し及びカードスを設置する。
- (4)左右の机の間を折り畳みの補助板で塞がるようにする。
- (5)引出し及び及びカードケースともに自動ロック式とする。

④ (用具庫・収納庫)

- (1)車両後部両側に木製の用具庫を設置し、右側には掃除用具、左側には車載工具等を収納する。
- (2)右側受付机前に木製下開き式の図書収納庫を設置し、受付机と同じ高さにする。収納庫は2段式とし上段扉には、90度開きステーを設けること。
- (3)収納庫上部の上側に(次の巡回日は○月△日□曜日です)の案内板を設置する。
- (4)収納庫天板は図書を置いても滑りにくいようにし、天板部は皿状にし囲いを付ける。
- (5)用具庫・収納庫とも自動ロック式とする。

⑤ (扇風機及び温水ヒーター) ※

- (1)扇風機を左右受付上部に各1台、計2台を設置し首降り・固定切替え式で大きさは20cmの物とする。
- (2)温水ヒーターは運転席部は標準車通り。

⑥ (放送設備、他)

- (1)アンプ内臓カセットデッキ (出力40W) 1基
- (2)乗務員用マイク 1本

- (3)外部スピーカー (25W、前後に装備、トランペット型、前方スピーカーは埋め込み型、後部スピーカーは露出型) 2台
- (4)切替えスイッチ (前←→後) を設ける。
- (5)AMカーラジオ (標準車通りとする)
- (6)取り付けにあたっては、視界・耐震性を考慮する。

5. 塗装

- (1)内部は標準車通りとする。
- (2)外部の指定色は3色。車名と図書館名を入れる。
- (3)温泉噴気及び塩害の激しい地域ゆえ、強力な防錆処理を施すこと。

6. 付属品等

- (1)工具は標準車工具 1式
- (2)消火器は標準車搭載品 1本
- (3)床マットは運転席・助手席・受付席用マットで取り外し水洗いが可能な物 (一般市販品で可) 1式
- (4)車輪止めは標準車通り 1式
- (5)サンバイザー (運転席は標準車通り、助手席にも設置) 2ヶ
- (6)音声式バックブザー 1式
- (7)扉開閉確認装置 (赤色ランプ、ブザーにて警告する装置を設置) 1式
- (8)停止表示板、タイヤチェーン、発煙筒
- (9)サービスキット (救急箱、デモテープ他) 1式
- (10)補修用品 (オイルスプレー、ボンド、使用塗色小缶入全色:但しイラスト色は含まず) 1式
- (11)年月日プレート 1式

7. 諸経費

- (1)登録諸経費は業者負担とし、自賠責・重量税は市負担とする。

8. その他

- (1)仕様書に記載のない事項、その他細部については業者決定後、協議の上決定する。

名義 技師 岡本 隆雄 (内務省式)

股

番 号 BM-0721-1/2

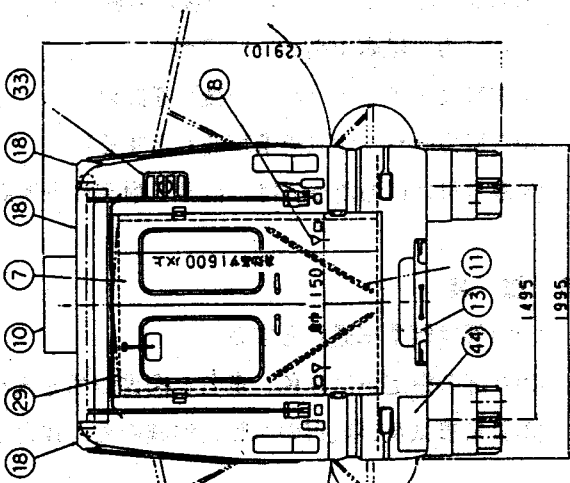
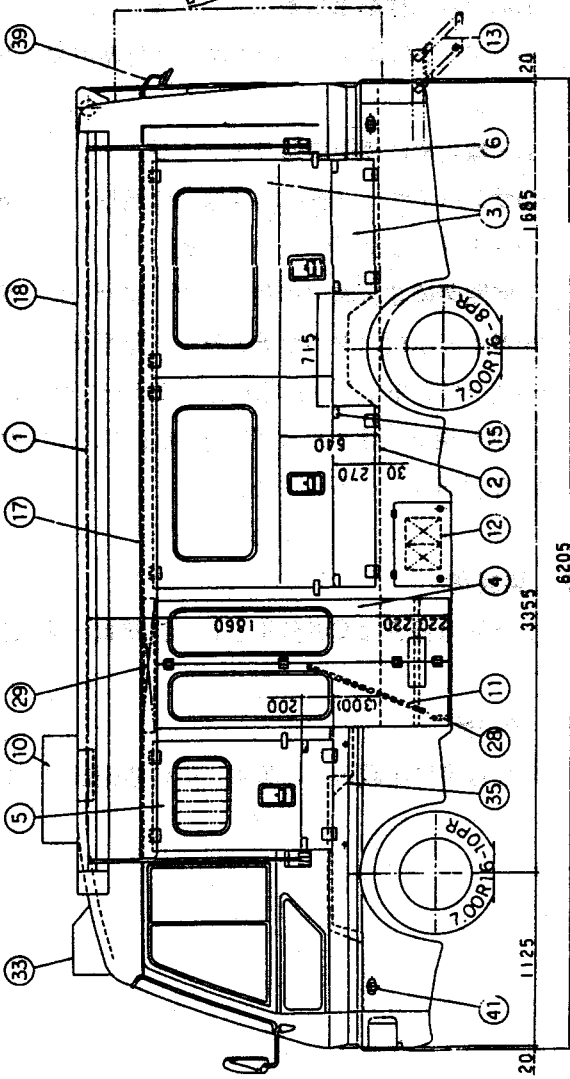
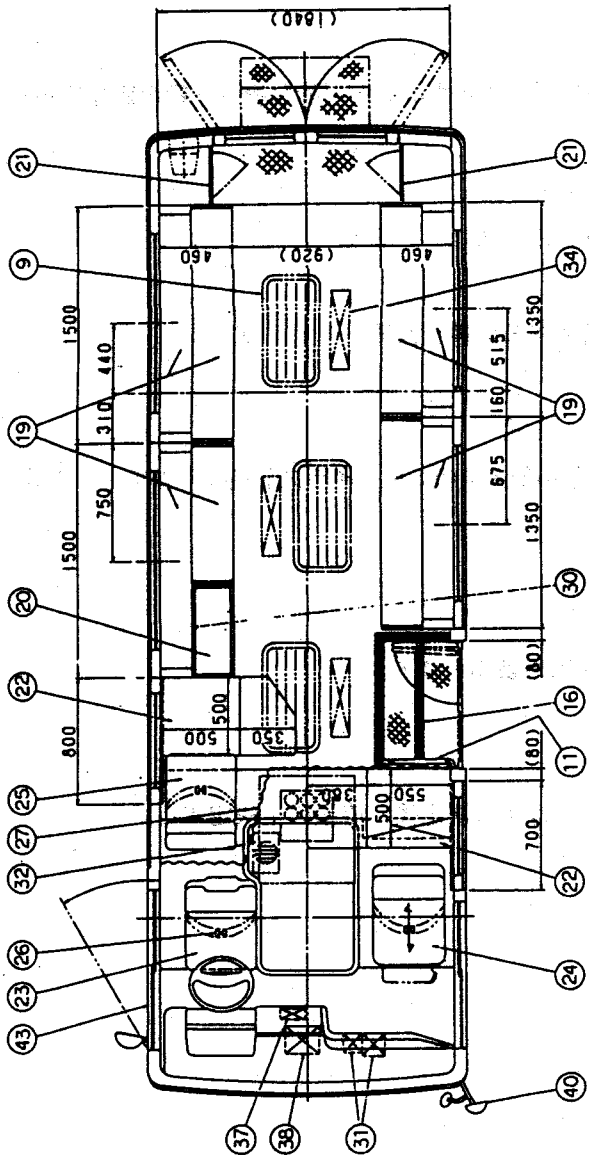
規 格 R 1/20 規 則 1 6 月 日

株式会社

用 意 名	番 号	規 則 番 号
1 天	1	1
2 床	1	1
3 窓	4	4
4 扉	1	1
5 床 付 具	2	2
6 上 座 用 上 部 金 具	5	5
7 鉄 床	1	1
8 休 息 間 上 部 金 具	2	2

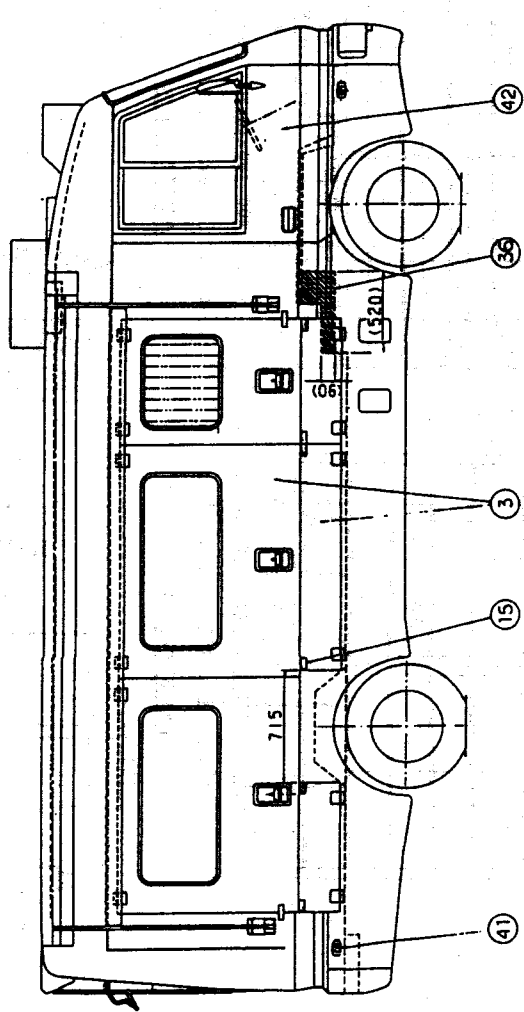
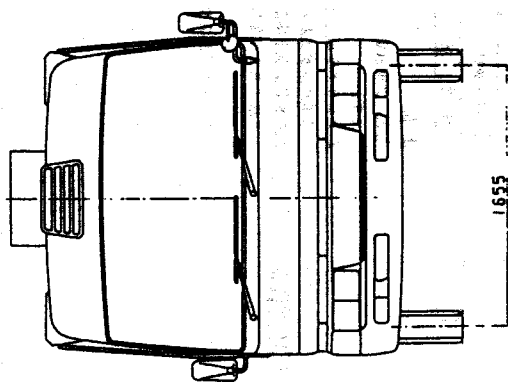
注 記

1. 本図面の仕様位置に於いては、原仕様書の
 関係で多少変更する場合があります。



BM-0721-1/2

車名		型式		数量		用途		備考	
41	ボディワレター	4	1	1	1	1	1	1	1
42	運転席	1	1	1	1	1	1	1	1
43	後部座席	1	1	1	1	1	1	1	1
44	ドア	1	1	1	1	1	1	1	1
45	エンジン	1	1	1	1	1	1	1	1
46	トランスミッション	1	1	1	1	1	1	1	1
47	リアサスペンション	1	1	1	1	1	1	1	1
48	フロントサスペンション	1	1	1	1	1	1	1	1
49	ブレーキ	1	1	1	1	1	1	1	1
50	ステアリング	1	1	1	1	1	1	1	1
21	用器	1	1	1	1	1	1	1	1
22	乗付	1	1	1	1	1	1	1	1
23	運搬	1	1	1	1	1	1	1	1
24	防犯	1	1	1	1	1	1	1	1
25	乗付	1	1	1	1	1	1	1	1
26	安全ベルト	3	1	1	1	1	1	1	1
27	中仕切り	1	1	1	1	1	1	1	1
28	ストッパー	1	1	1	1	1	1	1	1
29	乗降用ハット	1	1	1	1	1	1	1	1
30	裏面表示板	1	1	1	1	1	1	1	1
31	放送設備	1	1	1	1	1	1	1	1
32	室内スピーカー	1	1	1	1	1	1	1	1
33	外部スピーカー	2	1	1	1	1	1	1	1
34	室内灯	3	1	1	1	1	1	1	1
35	切欠	1	1	1	1	1	1	1	1
36	足元照し込み	1	1	1	1	1	1	1	1
37	ラジオ	1	1	1	1	1	1	1	1
38	暖水ヒーター	1	1	1	1	1	1	1	1
39	リヤミラー	1	1	1	1	1	1	1	1
40	バックミラー	1	1	1	1	1	1	1	1
11	音響機器	1	1	1	1	1	1	1	1
12	パナソニック	1	1	1	1	1	1	1	1
13	後部引出し	1	1	1	1	1	1	1	1
14		1	1	1	1	1	1	1	1
15	中間ボックス	12	1	1	1	1	1	1	1
16	中間ボックス	1	1	1	1	1	1	1	1
17	特殊両端	2	1	1	1	1	1	1	1
18	2M	3	1	1	1	1	1	1	1
19	スチール	4	1	1	1	1	1	1	1
20	取柄	1	1	1	1	1	1	1	1



BM-0721-2/2

名 称 右側スリール書架(内付扉式)
木製 輸入 製

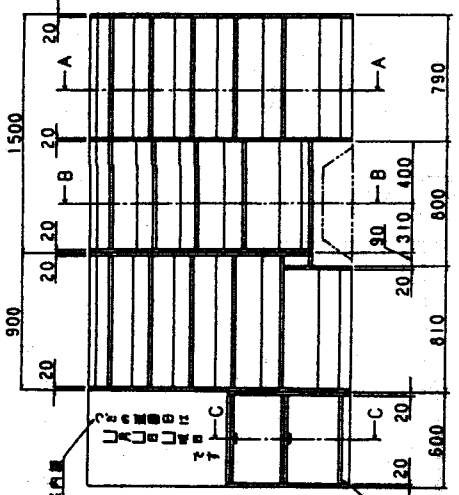
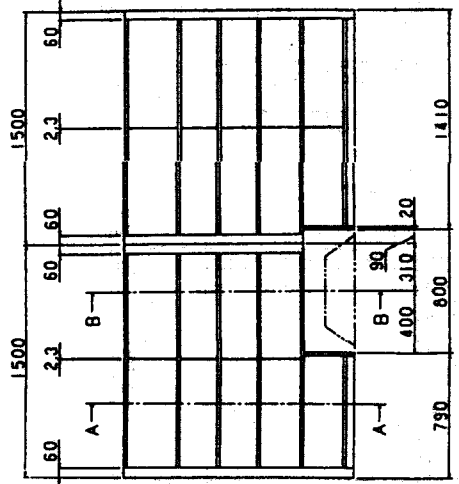
型番 BM-0721-02

種 別	材 質	色 目	備 考
書架	木製	白	
メーカー	型番	寸法	備 考
S.M.	BM-0721-02	1500x790x200	

注 記

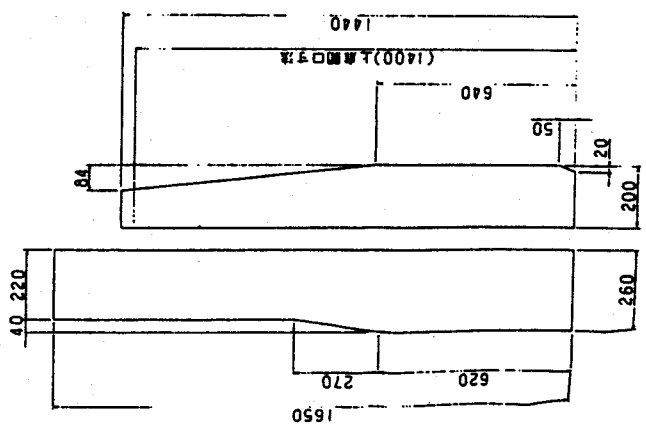
1. 本工脚取具、防錆処理後、元の面元の塗装仕上げ。
2. 本架は水平置、内径は10度の傾斜とし、扉裏面に設置し上の扉を張付け。
3. 内径最上段を固定したアジャスターを1個付し、調整は上蓋の裏面で行う。
4. 輸入者はワックス、上ノリ目止め、ニス塗り仕上げ。

※()内寸法は約とする。

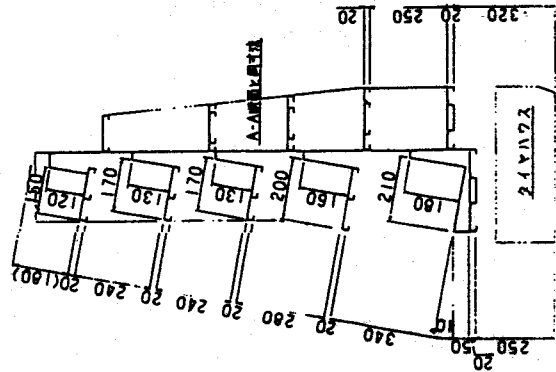


外装正面図 S=1/20

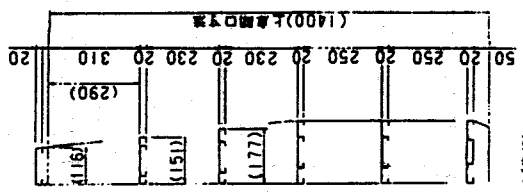
内装正面図 S=1/20



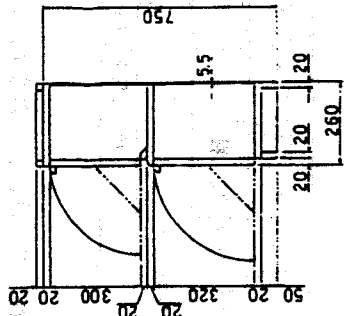
側面図 S=1/20



A-A断面図 S=1/10



B-B断面図 S=1/10



C-C断面図 S=1/10

BM-0721-02

名称 左侧受付机

般

図番 BM-0721-03

種 R 1/10 数量 1 7月 7日

株式会社 S.N

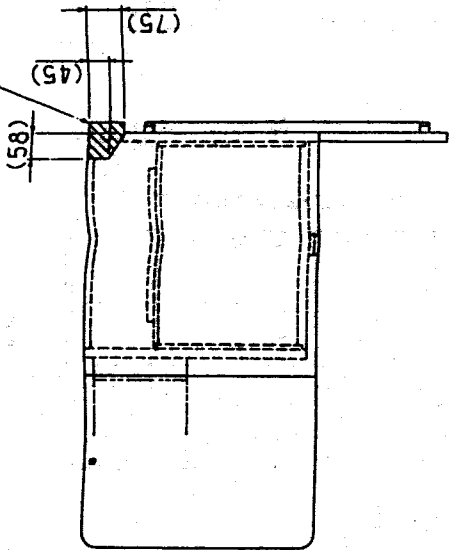
符号 名称 数量 備考

注記

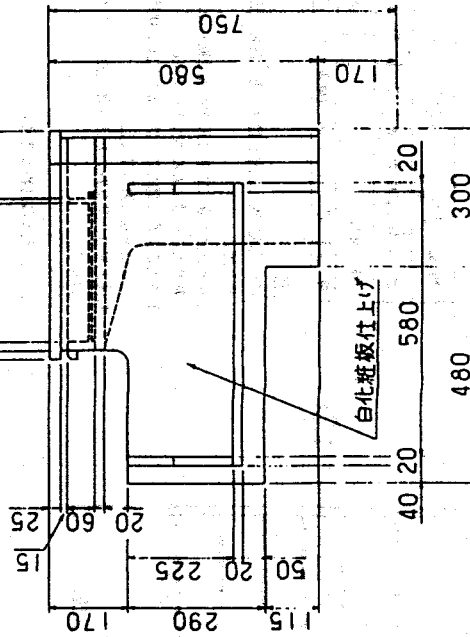
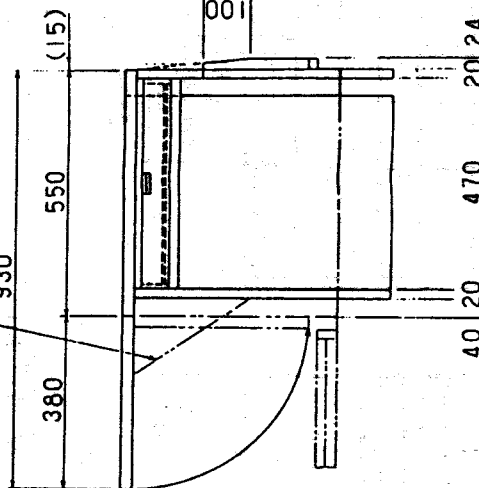
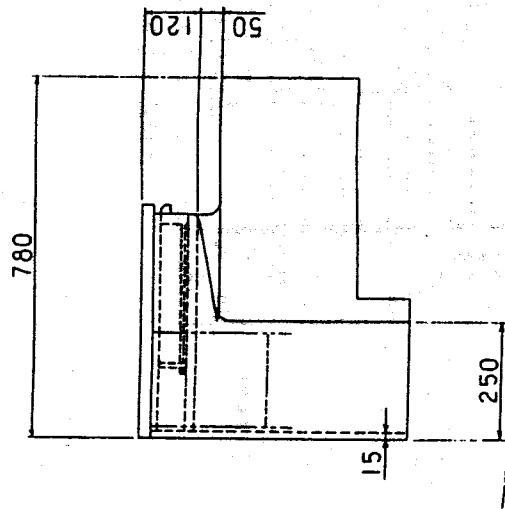
1. ラワン材、上ノコ目止め、ニス塗り仕上げ。
2. 机表面は木目子コラ張り、1部折りたたみ式。
3. 自動ロック付抽出し1本。
4. 受付扉側は白化粧板仕上げ。

※ () 内寸法は約とする。

折角前側支柱
切り欠きは現車合わせ



ストロング7-42本



BM-0721-03

名称 右侧受付机

般

図番 BM-0721-04

細 R 1/10 数量 1

H.8

7月 日

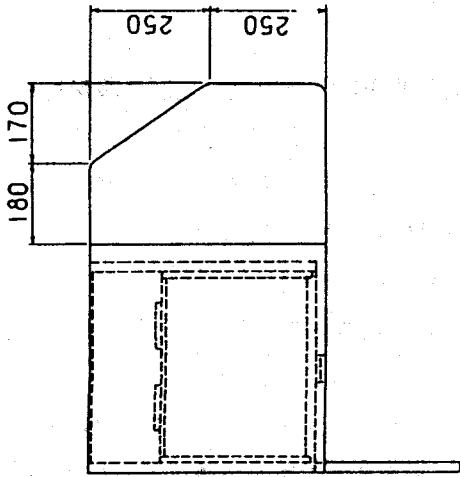
株式会社

S. Nishi

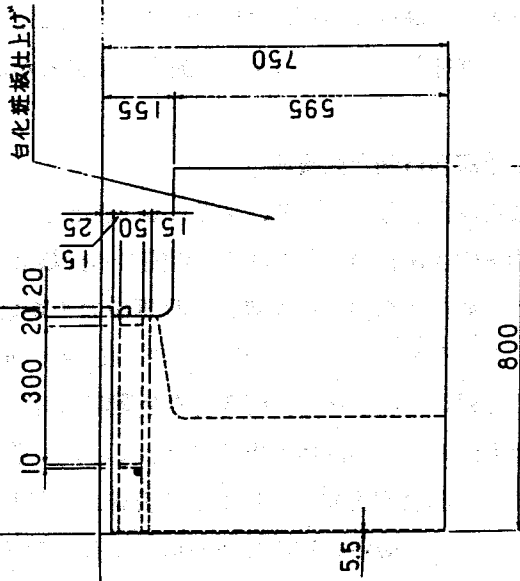
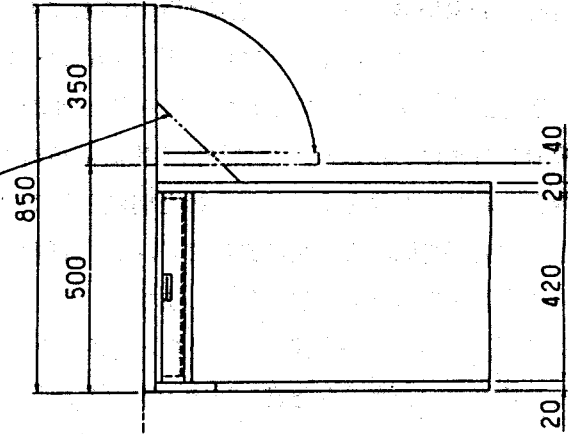
符号 名称 数量 備考

注記

1. ラワン材、トノコ目止め、ニス塗り仕上げ。
2. テーパー表面、木目デコラ張り、1部所在はみ式とする。
3. 受付扉側は白化粧板仕上げとすること。
4. 抽出しは自動ロック付とする。



ストロングアーム 2本



白化粧板仕上げ

BM-0721-04